

学校教育目標	『やさしいっぱい』『ともだちっぱい』『みんないきいき』瀬ヶ崎っ子 ○「分かる授業」「楽しい授業」を目指して、一人ひとりの子どもをより確かに理解し、学習内容を確実に身につけられるように取組を進め、確かな学力・人間性豊かな子を育てます。(知) ○子ども同士のかかわりを深め、互いに違いを認め、いじめや差別のないなかまづくりを進め、偏見や差別に対して、「おかしい」と言える子を育てます。(徳) ○「早寝」「早起き」「朝ごはん」の規則正しい生活をする姿勢を培うとともに食教育を進め、自分や人の生命と体を大切に健康でたくましい子を育てます。(体) ○家庭や地域と連携を図りながら、自分たちの住んでいるまち「せがさき」をはじめ、金沢区や横浜に誇りをもてる子を育てます。(公) ○様々な人とのコミュニケーションをとって、ものの見方や考えかたを広げようとする子を育てます。(開)				
	創立 72 周年	学校長 栗栖 光美	副校長 関口 義和	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 5
学校概要	児童生徒数: 343 人 主な関係校: 六浦中学校・六浦小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	六浦中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
コミュニケーション力 問題発見・解決能力 自分づくりに関する力(自尊感情の育成)	六浦中	○相手意識をもち、偏見や差別、いじめに対して「おかしい」と言える子の育成 ○挨拶のできる子の育成 ○主体的に学習に取り組み、自ら問いを立て自ら解決する子の育成
	六浦小	・小中ブロックで合同授業研、人権研修会を実施します。 ・挨拶運動に取り組み、気持ちの良い挨拶のできる子の育成に努めます。 ・「わかる授業」「楽しい授業」を目指して、授業力向上に向けて研修を積み、「自尊感情」「自己有用感」を育てます。
	瀬ヶ崎小	

中期取組目標	○まちとともに歩み、「だれもが」「安心して」「豊かに」すごせる学校にします。 ～令和にふさわしい瀬ヶ崎小学校の在り方を模索する3年間～	
	・子どもに寄り添い、一人ひとりを大切にするとともに、その教育に情熱と使命感をもって臨む教職員集団を目指します。 ・学校教育目標の具現化と諸課題の解決に向かって、教職員が一体となって取り組める組織作りに努めます。 ・子どもたちが、主体的に学ぶことを大切にして、授業改善に努めます。 ・家庭や地域とのかかわりを豊かにし、結びつきを強めていくとともに、これまで大切にしてきた人権教育を、現代的課題をふまえて、さらに重視した教育活動を展開します。	

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①これまでの研究の蓄積を活かして、瀬ヶ崎スタンダードや授業デザインを教職員全体でより定着・発展させる。 ②互いに認め合う「子ども同士がつながり合う授業」からコミュニケーション力を育み、学力向上につなげる。 ③教科担任制、チームブロック経営等を通して一人ひとりの学習状況把握と基礎学力の定着を図る。 ④期学習や読書タイムの充実と、特別支援教室や、ICT活用、アシスタントティーチャー等との連携による基礎・基本の定着。 ⑤個への支援と、集団での支援を充実させ、よりよい授業を創り、学級経営を子どもが自定できるようにする。
担当	重点研推進委員会	
徳	人権教育	①人権教育を通して、子どもたちに人権に関する資質・能力を育て、小中ブロックで情報を共有していく。 ②人権教育を基盤とした、本校のよさを活かしたカリキュラムマネジメントの推進と教育課程の検証、改善を引き続き行う。 ③スタンダードに立ち返りながら、多くの人とのつながりの中で子どもも教職員も自尊感情、人権意識を育む。 ④ちがいがや多様性を認め、誰もが安心して学べる授業づくりを通して、児童一人ひとりの思いや考えと丁寧に向き合う。
担当	人権推進担当	
体	健やかな体	①学校保健委員会を活用し、子どもたちが日常的に自分の健康を意識できる活動をつくるとともに、測定前の時間や読み聞かせの時間を使い、生活習慣について考える機会を充実させることや、長期休みに「生活リズムチェック」を通して、家庭と連携した取り組みを推進する。 ②休み時間に活用できる用具を工夫し、外遊びを推進する。 ③児童の委員会活動では、「集会」、運動を推進する「週間」「アスレの森の時間」等を企画し、子ども自身が体力向上を意識して参加できる活動を設ける。
担当	体育部・保健部	
公開	自分づくり教育	①横浜の時間や生活科を中心に、教科領域において外部人材を活用し、地域をはじめ、様々な人材と出会い、多面的な物の見方や考え方に触れ、自分づくりについて学べるような教育活動を行う。 ②キャリアパスポートを行事や学習の活用し、自らの学びや成長を振り返る。 ③学校や地域のように気持ち、学校や地域への愛着を育む。 ④アスレの森と瀬ヶ崎のまちづくりを通して、地域の中で活躍する子どもの力を育成する。校内で培った力を生かし、さまざまなまちづくりに関わっていくとする気持ちを高める。
担当	キャリア教育・生活総合部会	
いじめへの対応		①日常的、定期的に子どもに関する情報共有を行うとともに、月一回以上のいじめ防止対策委員会を開催する。いじめの経過についても、共通理解し、対応について確認しながら解消をめざす。 ②1人1台端末を活用した健康観察と自由記述欄の確認を毎日行う。 ③子どもへのアンケートを様々な形で、年4回以上行うとともに、アンケートをもとにした面談等を実施する。
担当	児童指導部	
人材育成・組織運営(働き方)		①経験5年以下の教員で組織するメンターチームで月に一回の活動を定期的に行う。その際、ミドルリーダーだけでなく多くの職員が関わり、助言できるようにする。 ②会議等をおかない日を意識して設定し、職員の指導力の向上につながるよう取組を工夫し、その有効活用を図る。 ③校務DXを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、会議及び校務などの精選をする。 ④教務を中心に、学校の現状のニーズに合った様々な研修を計画的に行う。
担当	教務部・メンターチーム	
地域連携 学校運営協議会		①学校運営協議会の活性化を図り、学校教育がより豊かになるように、地域との関係性を深めていくと共に、地域との協働について考える(アスレの森の運用「ほか」)について考える。 ②学習の中に、地域の外部人材の活用や大学との連携を積極的に取り入れ、地域学校協働活動の活性化を図る。 ③現在行っている地域と連携した様々な活動を継続および改善するために、地域学校協働本部と連携して、協力していただきたいことを明確にして、持続可能なかたちにしていく。
担当	教務部	
特別支援教育		①特別支援が必要な子どもに対して、取り出しや入り込み授業を行う。 ②療育センターや通級等のセンター的機能を活かし、研修を行ったりして、教職員の特別支援への理解を深める。 ③個別支援級の児童を中心においた交流を充実したものにする。 ④特別支援教室を設置し、専任のコーディネートを中心に、支援が必要な子どもが安心して学校生活を送れる場の充実を図る。
担当	特別支援教育部	
児童生徒指導		①全教職員が適宜情報共有しながら組織的に子どもの指導にあたると共に、関係機関との連携を図っていく。 ②瀬ヶ崎スタンダードを基に、同じ方向を向いて子どもたちの指導にあたることができるようにすると共に、チームブロック経営を活かし、チームで関わり、相談、協働しながら、対応の質を高める。
担当	児童指導部	
縦割り活動 本物に触れる体験		①年間を通して、なかま(縦割り)活動を大切にし、各行事で異学年とのつながりを大切にした活動を位置づける。 ②地域の人材マップや様々な外的資源を取り入れ、芸術や文化的なことに触れる機会を増やす。
担当	なかまづくり委員会・教務	